

異常者

田中浩司

私は生まれてから父と話をしたことはなく

これではいけないと思い

話し掛けると

父は大声で怒鳴ってくる

怒鳴らないときは

「知らない」

「分からない」

としか言わない

若いときから精神病のような人だった

家にいるときは

いつも口を利かず

たまに母と喋れば

大声で怒鳴る

包括支援センターの担当者からは

「この人はこういう人だから、薬を飲んでも治るといっわけではない」と言われた

父が酒を飲んで車を運転したので

警察を呼んだ

父が家に帰ってくると

警官は父のアルコールを測定した

異状はなかった

酒を飲んでから

六時間以上たってしまったためだった

父は警官に「こいつは精神を病んでいるんだぞ」と言った

警官も父を不審に思い

「息子さん、お父さんが酒を飲んで車を運転した疑いがあるだけでもいいので、また警察に電話してください」

と言った

南の果て

田中浩司

父は精神病だ

眠れないから母に睡眠剤を

「くれ、くれ」

と いつも言っている

私のせいで

精神病になってしまったのだろうか

保健所からも市役所からも

精神科に連れて行くように言われている

この家は死の家だ

老いた二人の親はいつも暗い

逃げてしまいたい

華やかな若いお前と

日本の南の果てまで